

ワーク・モチベーション研究 －日本的働き方について

商学部
経営・流通学科
准教授
菊池 英貴

研究シーズの紹介

本研究は、組織における従業員の働くモチベーションを高める施策について研究している。経営理論としては、米国で生み出されたものが研究され日本でも実践的に導入されてきた。しかし、国によって歴史、風土、文化、信仰も異なるように、諸外国のいわゆるグローバル・スタンダードとは異なる日本特有の効果的施策があると考えます。また、米国コンサルティング

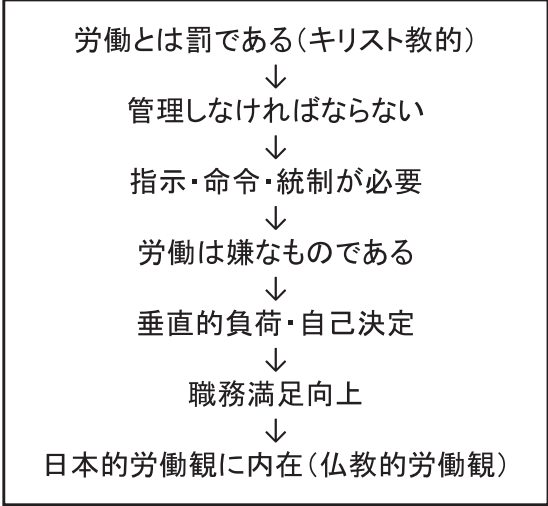
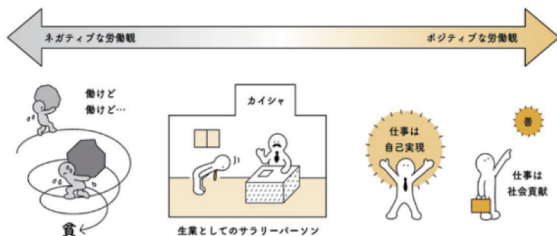
などは日本企業の成果をコンセプト化し理論化していることが多い。今までコンセプト化されていないが、効果的と考えられる日本式職務満足の見取り方について研究している。



職務の垂直的負荷

- 職務の遂行において自己決定、垂直的負荷を実践することで職務満足と経営成績に効果がある

現代、個々の労働観は多様化していく



期待される活用シーン

- 少子化、労働力人口の減少にも効果的



監視する、監督するということが少ない

- 知識創造



それぞれの業務は各人に任せることで、管理者の負担減、従業員の満足度の向上